

故事成語

塞翁が馬

塞上に近きの人に、術を善くする者有り。

馬故無くして亡げて胡に入る。

人皆之を弔す。其の父曰はく、

「此れ何遽ぞ福と為らざらんや。」と。

居ること数月、其の馬胡の駿馬を將ゐて歸る。

人皆之を賀す。其の父曰はく、

「此れ何遽ぞ禍と為る能はざらんや。」と。

家良馬に富む。其の子騎を好み、墮ちて其の髀を折る。

人皆之を弔す。其の父曰はく、

「此れ何遽ぞ福と為らざらんや。」と。

居ること一年、胡人大いに塞に入る。

丁壮なる者、絃を引きて戦ひ、

塞に近きの人、死する者十に九なり。

此れ独り跛の故を以て、父子相保てり。

国境のとりに近く、占いを得意とする人がいた。

その人の馬が理由もなく逃げて胡の国に行ってしまった。

人々はその不幸を慰めた。その老人は言った。

「これがなぜ福とならないだろうか、きっと福になる。」と

数ヶ月経つと、逃げた馬が胡国の立派な馬を連れて戻ってきた。

人々はそれを祝った。その老人は言った。

「これがなぜ禍になり得ないだろうか。きっと禍になる。」と。

老人の家は立派な馬が増えた。その子供は乗馬を好み、落馬してももの骨を折った。

人々はその不幸を慰めた。その老人は言った。

「これがなぜ福とならないだろうか。きっと福になる。」と。

一年経つと、胡国の軍隊がとりに攻め込んできた。

若者たちは、弓を引いて戦い、

とりに近い者たちは、十人のうち九人が戦死した。

息子は足が不自由で戦争にかり出されず、親子共々生き延びることができた。